山梨医大紀要　第13巻，57－61（1996）

『カンタベリ物語』本文の中でチョーサーが初めて使用したラテン語とフランス語の研究（8）

保谷一三

これはチョーサーが『カンタベリ物語』本文で初めて借用したラテン語とフランス語の研究である。今回は（7）に続き，253. mansuetude ~288. parentele　間での36語を扱う。借用の年代は1386年（頃）と確定しており，これとフランス語における初出年とを比較し，借用の早さ，借用の文化的背景を論じる。その際大陸のフランス語からか海峡の彼方のフランス語からかによって借用の意味の違いを明らかにする。

キーワード：チョーサー，ラテン語，フランス語，借用語

253. mansuetude　*n*[1]（OF）[2]　I[3]　Pars.[4]　650－5.[5]

The remedye agayns Ire is a vertu that men clepen *Mansuetude*, that is Debonairetee ;

（大意）腹立ちを押さえる薬はおとなしさと俗に言われる徳性です。換言すれば柔和さです。

Rothwell[6]にはない。Greimas[7]には mansuetume がある。L　mansuetudin-em から接尾辞を変えて借用したとする。1190年初出。Dauzat[8]では mansuétude1265年初出。lexis[9]ではもっと早く v. 1170年初出。

254. mantelet *n*（OF/AF）A. Kn. 2163.

A *mantelet* upon his shuldre hanginge
（Bret-ful of rubies rede, as fyr sparklinge.）

（大意）（彼は）短外套を片肩に引っかけておりましたが，（辺縁に至るまで赤いルビーが沢山取り付けてあり，まるで火炎が燃え盛っているかのようでありました。）

Rothwell に mantelet ‘short　cloak’ がある。Dauzat は mantel,　manteau980年初出，mantelet は1138年初出とする。ノルマン征服から72年経った OF 初出であるので AF にも権利を与えて OF/AF としておく。

255. markisesse *n*（AF？）E. Cl. 283.

（…　　in our dore, and see）
The *markisesse*, and therfor wol I fonde

（大意）（…戸口に立って）侯爵夫人を（見物し，）それから（戻って仕事にかかる）としましょう。

Rothwell には marchis,　markys,　marquis があるが，その女性形はない。Greimas では marchis1080年初出。「国境守備隊長」が原義。綴り直して marquis　début XIII^{e}s. となった。女性形について *lexis* は1472年初出としている。これは Chaucer の1386年頃に14年後れる。綴りからみて AF か AF の男性形から Chaucer が造語したのではないか。

256. marle-pit *n*（OF/AF）A. Mil. 3460.

（He walked in the feeldes for to prye
Upon the sterres, what ther sholde bifalle,）
Til he was in a *marle-pit* y-falle.

（大意）（彼は野原を歩き星を観察しておりました。ひょっとして星に何が起こるだろうか。）やがて（肥料となる）泥灰の採掘穴におっこちてしまいました。

全員が marle を記載している。Dauzat, *lexis* では1266年初出。1066年から200年経過しており，AF で十分使われていたので Chaucer との関係では OF/AF とできそうである。

257. Marcien *a*（OF/AF）D. WB. 610.

（For certes, I am al Venerien）
In felinge, and myn herte is *Marcien*.

（大意）（確かな話，私は）気持ちは（ビーナス派です。）けれど心はマルス派です。

Rothwell にない。Greimas, Dauzat は Mars だけ。*lexis* では Martien1530年初出。OED によると L. -anus は OF. －ain,（after i）－en で，英語は L. に戻って-an。したがってこの僅かな情報ではむしろ AF。一応 OF/AF としておく。

258. maister-strete *n*（OF/AF）A. Kn. 2902.

Thurgh-out the citee, by the *maister-strete*,

（大意）都大路を通って

全員に形容詞の maistre がある。OF 1080年初出で，修飾位置は前位置が多い。Rothwell の例文：Si forment chet…Ke le maister os li est brise De la quisse（あまりに勢いよく倒れたので，太ももの主骨を折ってしまった）S Modw 8250がある。

259. maister-tour *n*（OF/AF）F. Sq. 226.

山梨県中巨摩郡玉穂町山梨医科大学英語
（受付：1996年8月30日）

（And somme of hem wondred on the mirour,）
That born was up in-to the *maister-tour*,
（大意）（そして彼らのある者は）主塔の高い所にはめ込まれた（鏡に驚嘆しました。）
同前。

260. mediacioun *n*（AF）B. ML. 234.

And by the popes *mediacioun*
（大意）（協約と外交交渉と）法王の仲介によって（全教会と全騎士団が若い回教君主とコンスタンスの結婚に同意したのでした。）
Rothwell に mediation, -cion があり, par mediacion des deux cardinales…（二人の枢機卿の仲介で）*Anon Chr* 17. 41の例文が出る。Greimas になく，Dauzat では XV^e^s. 初出で，Chaucer より後になる。
lexis では1561年初出。AF としておく。

261. melancolyk *a*（OF/AF）A. Kn. 1375.

（Nat oonly lyk the loveres maladye
Of hereos, but rather lyk manye）
Engendred of humour *melancolyk*,
（大意）（アーサイトの病は恋の病に似ているばかりか否むしろ）鬱病（の気味がありました。）
Rothwell には名詞形 melancolie だけ。'black bile' と 'sadness' の二つの意味がある。Greimas では melancolios adj. finXII^e^s. 初出。《triste》義。
Dauzat, *lexis* では1265年初出。綴りは AF の趣があり，OF/AF としておく。

262. meridional a（L/OF）F. Sq. 263.

Phebus hath laft the angle *meridional*,
（大意）太陽は第十宿を離れました（＝正午の大潮はなくなりつつありました）。
Rothwell, Greimas にない。Dauzat, *lexis* では1314年初出。フランスの占星学用語として1377年初出。Chaucer は *Astrolabe* の中で meridional を使っているが，この本の成立が1391年以降[10]とすると，『カンタベリ物語』の執筆時点で L や OF の文献により相当な知識をもっていたはずである。

263.. messuage *n*（AF）A. Rv. 3979.

（The person of the toun, for she was feir,
In purpos was to maken hir his heir）
Bothe of his catel and his *messuage*.
（大意）（町を統括する牧師は娘の産んだ子が美人なので跡継ぎにしたいと考えました。）動産と不動産の両方を（相続させ，有力者に嫁がせよう。）
Rothwell では messuage 'dwelling-house' 義。例文：le termer edifia beu m. en cele terre（借地人はこの土地に立派な家を建てた）*YBB* 20－21. Greimas, Dauzat, *lexis* にはない。

264. misconceyveth *v*（AF）E. Mch. 2410.

（And it is al another than it semeth.）
He that *misconceyveth*, he misdemeth.
（大意）（非常に多くの人は物が見えていると思っていますが，見た目とは大違いなのです。）間違って理解した人は判断を損ないます。
Rothwell には conceivre, -çaivere, -ceivere がある。OED に従えばこれは OF conceveir の stressed stem conceiv－をもつ形となる。例文として Ne pout conceyvre Jhesu Crist Dunt ele parla（彼女がイエスキリストを口にしたが理解はしなかった）S Agnes 83. がある。Greimas, Dauzat では concevoir 1130年初出。*lexis* では v. 1300年初出。特殊な綴りから AF としておく。

265. misdeparteth *v*（OF）B. ML. 107.

（Thou blamest Crist, and seyst ful bitterly,）
He *misdeparteth* richesse temporal;
（大意）（あなたはキリストを非難し，さも苦々しそうに）彼のこの世の富の分配のしかたは不公平だ（とおっしゃる。）
Rothwell に departir がある。'divide' 義。Dauzat では1080年初出。*lexis* v. 1050年初出。ノルマン征服以前の可能性もあるので OF としたい

266. misgovernance *n*（AF）B. MK. 3202.

（Had never worldly man so heigh degree）
As Adam, til he for *misgovernance*
（大意）アダムは（この世で最高の地位を）得ましたが，果ては行動を誤り（いとも栄えた地位から追放されてしまいました。）
Rothwell では governance に 'conduct' 義がある。例文：prince de bone gouvernance（品行すぐれた王侯）*Let & Pet* xxxi5. Greimas では1330年初出。しかし《gouvernement, jurisdiction, puissance》義のみ。したがって語義面から AF としておく。

267. miteyn *n*（AF）C. Pard. 373.

He that his hond wol putte in this *miteyn*,
（He shal have mutiplying of his greyn,）
（大意）この手袋に手をいれれば（その手で種を蒔くとき収穫を何倍にもでき，お金や麦のお布施をお寺にできるのですぞ。）
Rothwell では mittoine, mitain, -ein 'mitten' がある。Greimas 等は mitaine 1180年初出。綴りに注目すると明らかに AF である。

268. modifye *v*（OF/AF）a. Kn. 2542.

（Wherfore, to shapen that they shul not dye,）
He（＝Theseus）wol his firste purpos *modifye*.
（大意）（テセウス公は決断され，模擬戦の参加者に死者がでることのないよう）初めの計画を変更なさいます。（殺人道具の持ち込みは禁止です。）
Rothwell には modifier がある。'moderate, reduce' 義。Greimas にない。Dauzat, lexis では modifier1355年初出。OF としては遅い。OF/AF としてよい。

269. moysty *a*（AF）H. Manc. 60.

For, were it wyn, or old or *moysty* ale,
（That he hath dronke, he speketh in his nose,）
（大意）（宿の主人は食料賄い人の方を向いて言った。）ブドー酒であろうと濁った古ビールであろうと透明な新ビールであろうと，（飲むとこの人は鼻声になります。そしてはあはあし，カゼも引いてしまいます。）
Rothwell には moiste, moit, moste, muiste, muisti がある。例文：L'ewe est muiste et clere et pure（水は新しく，澄んで透明である）*St. Modwenna* 5953.
OED は of ale : NEW と釈義している。Greimas moiste 1260年初出。《humide》義。綴りから AF としておく。

270. mollificacioun *n*（L）G. CY. 854.

（Yet forgat I to maken rehersaille
Of watres corosif and of limaille,
And of bodyes *mollificacioun*.
（大意）（しかし申し忘れましたが酸性水ややすり屑，）また物質の軟化も（錬金術の中に）あります。
Rothwell には mollefiant, mollificatif 'emollient' のみ。Greimas にない。Dauzat では mou1170年，mollifier1425年，mollification1560年初出。ラテン語には mollis-facio >mollifico とその名詞である mollification-em があるので，ラテン語書からの直接の借用ではないか。

271. moralitee n（OF）B. MK. 3687.

（In youthe a maister hadde this emperour,
To teche him letterure and curteisye,）
For of *moralitee* he was the flour.
（大意）（幼少年期この皇帝（＝十六歳で即位した暴君ネロ）は先生（＝セネカ）から文学と礼儀を習ったのです。）事実徳性に関しては模範でありました。
Rothwell では moralite 'moral treatise' 義で道徳論の意味。Greimas では moralité finXIIe s.< bas lat. moralitas[11] «caractère, mœur»義。lexis では1180年初出。OF でよい。

272. mortally ad（AF）B. ML. 406.

（The sowdanesse, for al hir flateringe,）
Caste under this ful *mortally* to stinge.
（大意）（この回教の女君主は息子とキリスト教徒の女性の結婚についてなにかとほめそやす中で）ひそかに必殺の計画を練っていたのでありました。
Rothwell では mortelement, mortaument がある。例文：mortuement　naufré（死んでしまう傷を負った）TRIV193. 2. Greimas, Dauzat では mortel　1080年初出。*lexis* では mortellement1155年初出。AF の形容詞には mortel のほか mortal もあるので，AF としておく。

273. mortificacion *n*（L/OF）I. Pars. 1080－5.

and the lyf by deeth and *mortificacion* of sinne.
（大意）そして死んで罪を解消することによって命を得るのです。
Rothwell では mortifier 'annul' がある。Greimas では mortifier1120年初出。<lat. ecc. mortificare. mortificationXIIe s.《annéantissement》。L/OF でよい。

274. murmuracion *n*（L/OF）I. Pars. 495－500.

after backbyting cometh grucching or *murmuracion*.
（大意）陰口に次いでよくないのは愚痴です。
Rothwell では murmurer 'grumble'。Greimas では murmurer1120年初出。murmuracion finXIIIe s. « murmure de mécontentement»。この議論はラテン語文献が多いことから L/OF としておく。

275. murmureden *v*（OF/AF）F. Sq. 204.

They *murmureden* as doth a swarm of been,
（And maden skiles after hir fantasyes,）
（大意）人々は（騎士の乗った素晴らしい馬を見て）蜂の群れのようにざわめき（それぞれに空想を巡らして推理したのでした。）
Greimas では1120年初出。Rothwell では名詞の murmure に 'trouble, disturbance' 義があり，Chaucer 義に近い。[12] OF/AF にしておく。

276. mosel *n*（OF/AF）A. Kn. 2151.

And folwed him, with *mosel* faste y-bounde,
（大意）そして（模擬戦場にむけて二千匹以上の鹿ほどもある狼猟犬が）かれ（＝パラモン方のトラキアの大王）の後に口を固く結ばれて付き従いました。
Rothwell には mus (s) el, morsel, mossel がある。ただ「一口分」の意。動詞 mordre 'bite' の名詞形 mors に「轡」の意味が出ていない。Greimas　mors には４°「轡」がある。*lexis* では「轡」の意味は1370年初出。意味は OF，語形は AF なので，OF/AF とする。

277. nyfles *npl*（AF？）D. Som. 1760.

He served hem with *nyfles* and with fables.
（大意）彼（＝二人のたく鉢僧のお供）は（記録帳を見ながら一戸毎の）あることないことを彼らに話して聞かせるのでした。
Rothwell には nife《bot.》'medlar（as worthless object）があり，比喩的に使う。例文：Cele baptisterie ne valt une nife（この洗礼は何の価値もない）Ch Guill2115. －le は OF 由来の指小辞と解せる。Greimas 等にはない。OED は med.L. nichil 'nothing' に語源を見ているが，敢えて AF？としておく。

278. nobledest *v*（OF）G. SN. 40.

Thou *nobledest* so ferforth our nature
（大意）（聖母マリア様）あなたは人間性を非常に高められました。
Rothwell にはない。Greimas には nobloier finXIIes. がある。

279. nortelrye *n*（AF？）A. Rv. 3967.

(Hir thoughte that a lady sholde hir spare,)
What for hir kindrede and hir *nortelrye*
(That she had lerned in the nonnerye.)
（大意）（粉屋の細君の考えでは淑女は）身内や子供のために（尼僧院で学んだことを大切に保っていかなければならないのでした。）
Rothwell では nureture, noretur (r) e がある。沢山意味のある中で 'offspring' 義を採用したい。The *Riverside Chaucer* の footnote 'education' は採らない。OED では ME nortour の別形。

280. obsequies *npl*（OF/AF）A. Kn. 993.

(And to the ladyes he（＝Theseus）restored agayn
The bones of hir housbondes that were slayn,)
To doon *obsequies*, as was tho the gyse.
（大意）（そして女達に彼（＝テセウス）は模擬戦場で殺された夫の遺骨を返してやり，）時代のやり方で葬式を営ませたのでした。
Rothwell では obsequie, obseque がある。Greimas では obseque1150年，obsequie1316年の初出。*lexis* では bas lat. obsequiae > obseques v. 1120年初出。語形が新しいので OF/AF とする。

281. octogamye *n*（L）D. WB. 33.

(God bad us for to wexe and multiplye;
…
But of no nombre mencioun made he,)
Of bigamye or *octogamye*;
（神様は産めよ殖やせよと私達にお命じになりました。…けれど結婚の回数については仰言っておりません。）二回でよいとも八回でよいとも。
OED は noncewd.[after bigamy]としている。ここで Chaucer は bi－との対照を意識している。このとき OF octo－よりも L octo－を考えていたのではないか。

282. operacioun *n*（OF/AF）D. WB. 1148.

(Heer may ye see wel, how that genterye
Is nat annexed to possession,)
Sith folk ne doon hir *operacioun*
(Alwey, as doth the fyr, lo! in his kinde.
（大意）（ここでよくお分かりだと思いますが，品行は財産とは関係がありません。）だって（火がその自然にしたがって燃えるように，いいですか，内々で財産家が）品行を保つことはないのです。
Rothwell にない。Greimas では operation1130年初出。2° bonnes œuvres。綴りが AF なので，OF/AF とする。

283. opposen *v*（OF/AF）D. Fri. 1597.

(May I nat axe a libel, Sir Somnour,
And answere there, by my procutour,)
To swich thing as men wol *opposen* me?
（大意）（召喚吏様，）そのような大金が私に課されるのでしたら，（取税官様の御権威にかけて，文書を拝見してからご返事させていただけません？）
Rothwell には opposen がある。Greimas では oposen である。1175年初出。ラテン語 opponere の pp. から。OF/AF としておく。

284. opposit *n*（L/OF）A. Kn. 1894.

(Est-ward ther stood a gate of marbel whyt,)
West-ward, right swich another in the *opposit*.
（大意）（東方に白大理石の門が立ち，）西方にも全く同じものが相対した位置に立っていた。
Rothwell にない。Greimas では oposite adj. 1225年初出。«opposé»義。OED は L. oppositus に由来すると説明。Chaucer は名詞化を実行した。

285. opposicioun *n*（L/OF/AF）F. Fkl. 1057.

(Do this miracle, …
That now, next at this *opposicioun*
（大意）（太陽様，）このような奇跡をお起こしください。いよいよ次に（月があなたと）向きあうとき，（海を高くして夫の船を危うくする暗礁をかくしていただきたいのです。）
Rothwell に opposicioun はあるが，ここのような意味はない。Dauzat では opposition1175年初出。しかし

星占学用語となったのは XV^{e}s. で，Chaucer に後れる。Chaucer はラテン語文献に親しみながら，OF，AF から借用したと思われる。

286. orpiment *n*（OF/AF）G. CY. 823.

（The firste spirit quik-silver called is,）
The second *orpiment*, …
（大意）（第一の気は水銀と言います,）
第二は雄黄です。

Rothwell では 'yellow arsenic'。例 文：Encontre felon…Pernez o. et vin egre et medlés ensemble…（潰瘍…には雄黄と酢を用意し，これを混ぜ…）*Med Pres*[1] 137. 12. Dauzat では début XIIe s. である。OED は OF < L としているが，AF も無視できない。

287. over-large *a*（OF/AF）B. Mel. 2785－90.

in swich a manere, that men holde nat yow to scars, ne to sparinge, ne to fool-large, that is to seyn, *over-large* a spender.
（大意）（あなたは得たお金を）けちだ，金惜しみだ，馬鹿使いする－つまり－大使いすると思われないように（使うべきです。）

Rothwell には large 'generous' がある。Dauzat では1080年初出。OF/AF としておく。OED は over-large 1532年 More 初出としているが間違い。

288. parentele *n*（OF）I. Pars. 905－10.

/And certes, *parentele* is in two maneres, outher goostly or fleshly ; goostly, as for to delen with hise godsibbes./
（大意）／そして確かな話，縁者には二通りあります。精神的であるか肉体的であるかです。精神的とは父親が名付け親になっている人々に対するような場合です。

Rothwell には parent, parentage, parenté のみ。Greimas では parentel 1314年 初 出。《parenté, ligné ; parent》義。ラテン語 parentela「一族；血縁」から。OF でよい。

（続く）

文　献

1）n は名詞を示す。以下品詞の英語名の略語がここにくる。
2）OF は Old French を示す。以下語源となる言語の略語がここにくる。
3）I は Skeat ed. *The Works of Chaucer* の Volume Ⅳ（TEXT）の目次に示された物語の集団分類記号で，アルファベット順になっている。
4）Pars. Skeat の TEXT 目次に出る The Parsones Tale の略。
5）650－5. Pars. の行番号。何行目であるかを示す。
6）Rothwell（1992）*Anglo-Norman Dictionary*.
7）Greimas（1968）*Ancien Français*.
8）Dauzat ed.（1964）*dictionnaire étymologique*.
9）lexis（1975）*dictionnaire de la langue française* Larousse.
10）*The Riverside Chaucer* 3 rd ed. OUP による。
11）Lewis : *A Latin Dictionary* によると，obiit A.D. 397Ambrosius, Chr.Writer に既に出ている。
12）le roialme estoit mœvé en grande m. & trouble（王国は大混乱となった）*Rot Parl*[1] iii232.

Abstract

A Study of Latin and French Loan Words Which Chaucer First Used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue (8)

Katsuzo HOYA

This is the eighth installment of a study of Latin and French loan words which Chaucer first used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue. This time I treat the next 36 words, No. 253 mansuetude to No. 288 parentele. The date of the first borrowing is ascertained to be about 1386. The present study compares the date with that of the first recorded appearance in French and elucidates the rapidity, and the cultural background, of borrowing. Special emphasis is placed on distinguishing the two sorts of French, Continental French and Anglo-French (or Anglo-Norman), thus making clear the nuance of borrowing. (To be continued)

Department of Foreign Languages (English)